

# 安全・安心な畜産物生産技術の開発

## －抗生物質に依存しない減投薬飼養管理システムの構築－

### 1 趣旨

我が国の畜産においては、成長促進を目的とした抗菌性飼料添加物や疾病治療のための動物用医薬品が多量に使用されており、これによる薬剤耐性菌の発生等が危惧されている。また、EUでは農相理事会において、成長促進を目的とする抗生物質の使用を平成18年までに段階的に廃止する方針が決定されたところである。

このため、本研究では、抗菌性飼料添加物及び動物用医薬品の使用量を低減させる減投薬飼養管理システムの構築に向けて、牛、豚、鶏の主要家畜について、家畜の免疫機能を活性化させる飼料及び飼料添加物を開発する。また、動物用医薬品の使用低減のため、微量の薬剤を特定部位(臓器・組織)に効率的・選択的に作用発現させるドラッグデリバリーシステム(薬剤運搬システム)技術の開発や、乳牛の疾病発生が少ない低ピーク・高持続型泌乳管理システムの開発を行う。

### 2 内容

#### (1) 抗菌性飼料添加物に頼らない畜産物生産技術の開発

牛、豚、鶏の主要家畜について、抗菌性飼料添加物と代替可能な、家畜の免疫機能を活性化させる飼料及び飼料添加物を開発するとともに、その利用技術を確立する。

#### (2) 動物用医薬品使用量低減のための畜産物生産技術の開発

##### ①減投薬等を可能とするドラッグデリバリーシステムの利用技術の開発

動物用医薬品の使用低減のため、微量の薬剤を特定部位に効率的・選択的に作用発現させるドラッグデリバリーシステム技術を開発する。

##### ②乳牛の低ピーク・高持続型泌乳管理システムの構築

泌乳ピーク時の疾病の発生が多い高泌乳牛管理システムを見直し、低ピーク・高持続型泌乳管理システムを構築することにより、動物用医薬品使用量の低減化を図る。

#### (3) 減投薬飼養管理システムの経営評価

減投薬システムを導入した場合の家畜の成長速度や事故率の変化、抗菌性飼料添加物・動物用医薬品に関する経費削減等が畜産経営に及ぼす評価を行う。

3. 実施主体 独立行政法人、大学、民間企業、公立試験研究機関等

4. 実施期間 平成17年度～平成19年度

5. 平成18年度概算決定額 118(148)百万円

(担当課：農林水産技術会議事務局 地域研究課)